

1995（平成7）年に起こった阪神・淡路大震災\*は、6,434人ももの死者を出したとても大きな災害です。この地域では、多くの人たちが大地震は起こらないと思っていたので、地震に対する備えが十分ではありませんでした。そんな中、人々の多くが寝ていた朝5時46分に地震は発生しました。たくさんの人たちが寝ているままの姿で家や家財の下敷きになりました。さらに多数の火災が発生しました。あまりにも大きな被害に、消防の力（公助）だけでは消火・救出活動が十分にできず、焼失家屋、死者は増え続けました。住民たちは、互いに協力して消火・救出活動を行い、多くの建物や命を守りました。

しばらくすると、家や身近な人を失ったり、二次災害を恐れたりする住民が、次々と避難所に集まってきました。しかし、電気、ガス、水道は止まり、電話は使えず、道路や鉄道は寸断され、多くの建物が崩壊し、救出やけがの治療を待つ多くの人たちがいる状況で、住民は不自由で不便な生活を余儀なくされました。このような状況の中で、日々生活していくには、お互いの助け合い、我慢強さと前向きに生きる気持ちが必要でした。

その後、全国から集まった援助、ボランティアの力も加わり、人々は自分たちのまちの復興に向けて動き出し、以前の生活が徐々に戻ってきました。一方で、例えば学校に避難した住民の中には、学校が授業を再開した後も、そこでの生活を続けなければならない人たちもいました。

やがて、人々は様々な困難を乗り越え、今の生活、まちをつくり上げました。

この災害では、耐震強度不足の建物や転倒防止をしていない家具の危険性が明らかになり、その後の防災対策を見直す契機になりました。



テレビが転がって、大きなガラスの扉付の本箱が私たちの上に倒れました。下の息子が押し入れの衣装ケースに埋もれて泣いています。

文・絵 カキケケコージ



崩れかかっている階段をパジャマの上にジャンパーを着て裸足で10階から駆け下りました。私が幼稚園年長（6才）の息子、妻が（4才）の息子をしっかりと抱いて暗闇の階段を下りました。

文・絵 カキケケコージ

\*用語解説）[阪神・淡路大震災] 1995（平成7）年1月17日、兵庫県南部地震（震央地名：淡路島、震源の深さ：16 km、規模：M 7.3、最大震度：7）により引き起こされた災害。



崩壊した自宅 神戸市東灘区御影  
村上悦二氏 撮影  
〔写真提供：阪神大震災を記録しつづける会〕



神戸市長田区  
Frank Carter氏 撮影  
〔写真提供：阪神大震災を記録しつづける会〕



阪神電鉄新在家駅東ガード下落 神戸市灘区  
斉藤豊氏 撮影  
〔写真提供：阪神大震災を記録しつづける会〕